

令和6年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（典籍・文書部会）

令和6年10月4日（金）
東京都江戸東京博物館リニューアル準備室会議室

午前10時28分開会

知花文化施設担当課長：

本日はお忙しい中御出席賜りまして、どうもありがとうございます。

ただいまから、令和6年度第1回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料評価部会典籍・文書部会を開催いたします。

私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の知花と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日の司会を務めさせていただきます。

資料収蔵委員会には収集部会と評価部会がございます。収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する部会、また、評価部会は、江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の皆様にご評価いただく部会でございます。本日の評価部会に先立ちまして、10月2日に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件については、当館に収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

次に、本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左側の席から順に御紹介させていただきます。

井田委員でございます。

加藤委員でございます。

小林委員でございます。

高橋委員でございます。

なお、永井委員でございますけれども、事前に御欠席の連絡をいただいております。

続きまして、事務局職員の御紹介でございます。

江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

副館長の藤生ですけれども、本日御欠席とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

一番上でございますのが、本日の「会議次第」。

続きまして、A4縦版でございますけれども「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会 資料評価部会（典籍・文書部会）委員名簿」。

続いて、「東京都江戸東京博物館収蔵委員会設置要綱」、ホチキス留めのものでございます。

続きまして、同じくA4縦、「令和6年度第1回資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）説明資料」、1枚の両面刷りのものでございます。

続きまして、A3横版でございますけれども、「令和6年度第1回資料収蔵委員会資料（資料評価部会 典籍・文書部会）」。

同じくA3横版ですけれども、「令和6年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（典籍・文書部会）評価票」となっております。

御不足等ございませんでしょうか。ありがとうございます。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収させていただきたいと思っております。

議事に入る前に、当部会の公開について確認をさせていただきます。本日の議事は評価対象資料の価格評価に関するものでございますので、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第11に基づきまして非公開とさせていただければと思っております。

なお、当部会の議事録につきましては、資料収集決定後、委員の皆様のご個別価格の評価を除きまして公開を予定しております。公開に当たって委員の皆様にご追って内容の確認をさせていただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、委員の皆様のお名前と現職名につきましては、東京都のホームページにて既に公開をさせていただいております。

それでは、議事に入ります。

江戸東京博物館事業企画課長の新田より、本日皆様に評価いただく資料の説明をいたします。よろしくお願いいたします。

新田事業企画課長：それでは、今回御評価いただく資料について御説明をいたします。

先ほどのA4の「令和6年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（典籍・文書部会）説明資料」を御覧ください。

1件目の資料は、『平賀源内書簡』です。平賀源内が出身である高松藩の藩士に宛てた2通の書状でございます。

1通目は3月23日付宮脇乙之進宛ての書状で、亘様(高松藩家老の木村季明)より金三両を拝借したことの礼を述べ、その金のおかげで家を手に入れたことが報告されます。加えて「田沼侯」の納戸役和田幸蔵から「水野出羽様若殿」(田沼意正)が「金唐革」などを所望しているとの連絡を受け、それらを送ったこと、いつもはこちらから売り込むところをあちらから望まれるのは珍しいといったことが書かれております。

2通目は5月29日付宮脇又右衛門宛ての書状で、「テリヤアカ」を勧める内容でございます。田沼意正が「水野出羽様若殿」と記されることから、1通目の書状は意正が水野家に養子に入った安永4年から、源内が没する安永8年の間に書かれたものと考えられます。加えて1通目の料紙には型押し装飾が施されており、源内の趣向をうかがわせる点も注目されます。

いずれの書状も、源内が幕政の中心人物周辺や出身の高松藩に対し、西洋の文物を案内する様子が具体的に記されており、江戸時代の西洋文化の導入、知識人や為政者たちの文化交流の様相を明らかにするために有用な資料です。

2件目の資料は、『君山君積宛酒井抱一書簡』でございます。酒井抱一が下総国流山の富商君山君積に宛てた書状でございます。

抱一は文化12年6月2日、尾形光琳百回忌に光琳作品を集めた遺墨展を開催いたしました。5月10日付の本書状は、その一月ほど前に書かれたもので、君積に世話役を依頼するものでございます。自分が借主になって光琳の掛物を百幅集めて展覧したいので世話人になってほしいとのこと、そのため江戸へ一日も早く、遅くとも15、6日までには来てほしいと、抱一は君積に懇願しております。

抱一の光琳顕彰活動は、日本美術史研究で高い関心を向けられてきた事柄です。その具体的な様相を伝える本資料は、抱一関係の書籍、展覧会図録などで頻繁に取り上げられ、琳派や抱一の研究者にはよく知られるものです。研究上高い価値を有する史料であると同時に、書にも優れた抱一の筆跡、草花の文様が施された料紙など、鑑賞価値を有する資料でもあります。

当館は、抱一が下谷金杉村大塚に構えた「雨華庵」の木額や、抱一が下絵を手がけた「蔓梅擬目白蒔絵軸盆」ほか、抱一の関与した美術工芸品を複数所蔵しております。抱一の光琳顕彰活動にかける熱意や、その具体的な様相、同時代人との交流を示す本資料は、既収蔵品と併せて、抱一の文化活動をつまびらかにする上で重要でございます。

3件目の資料は、『真鍋嘉一郎宛夏目漱石書簡』でございます。夏目漱石が晩年の主治医であった真鍋嘉一郎に宛てた書簡でございます。

漱石が特注して橋口五葉がデザインした漱石山房原稿用紙を使用しております。真鍋は松山時代の教え子で、大正5年12月の漱石の臨終にも立ち会った人物です。

書簡は、糖尿病治療に伴う尿検査に関するもので、先に検査用の尿を送ったが、食べたものを記した食事記録を同封し忘れたので、もう不要かもしれないが郵便で送るという内容が書かれます。

同じ6月10日付の書簡は複数知られております。例えばやはり真鍋宛てに、朝食時間と午前中の試験尿を取った時間とを記したものがあります。本書簡は、そこで食事記録を入れ忘れたことに気づいた漱石が、律儀に記録を後から送ったものであることが分かります。

またこの頃、漱石は未完の絶筆となる「明暗」を朝日新聞に連載中であり、同じ6月10日付で朝日新聞社の山本笑月に宛てた、投函したばかりの「明暗」第24回の原稿の訂正を依頼する書簡もでございます。その書簡には午後3時から4時の消印が認められます。

これら6月10日付の複数の書簡に本書簡が加わることで、執筆にも、それを成り立たせるための健康にも心を砕いた漱石の慌ただしい一日が見えてきます。

当館所蔵の「明暗」反古草稿が、漱石の精神世界を読み解く上で有用な資料であるのに対し、本書簡は病を押して創作に取り組む生身の漱石の姿を伝える資料です。既収蔵品と併せて、常設展示「市民文化と娯楽」ほか、近代の文学や生活風俗に関する展覧会での活用が見込まれます。

審議案件についての御説明は以上でございます。

知花文化施設担当課長：ありがとうございました。

こちらの説明につきまして、御質問、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして、評価方法について説明をいたします。

評価票に金額を記載していただきまして、署名をいただければと思います。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額とさせていただきます。

こちらの評価方法について、何か御質問、御意見ございますでしょうか。ありがとうございます。

それでは、これから資料の実見をお願いできればと思います。係の者が御案内いたしますので、移動をお願いできればと思います。

また、資料に関する個別の御質問につきましては、学芸員にお尋ねいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

知花文化施設担当課長：皆様、ありがとうございました。

それでは、議事を再開させていただければと思います。

資料を御覧いただきまして、何か御質問、御意見、もしくは御感想等ございますでしょうか。

特にないようでしたら、お手元の評価票に価格評価と御署名をお願いできればと思います。

ペンでの御記入に御協力お願いいたします。金額につきましては、消費税込みとなりますので、よろしくお願いいたします。

記入がお済みになった方は、係の者が確認させていただきますので、お声掛けいただければと思います。確認が終わりましたら御退席いただいて結構でございます。よろしくお願いいたします。

(評価票記入)

知花文化施設担当課長：本日はありがとうございました。

午前11時04分閉会

以上